

## 光トランシーバ世界市場は 10G SFP+ と XFP が牽引

ライトカウンティング(LightCounting)の調査によると、2010年Q3の光トランシーバ世界市場は、データコムと通信ネットワークからの力強い需要に後押しされて6億7000万ドルに達し、リセッション前2Q08の記録を更新した。

成長を牽引しているのは10GbE SFP+とDWDMモジュール、40Gデバイス。FTTxトランシーバと光インタコネクとも今期の力強い成長に貢献した。

データコム市場の回復は2009年下期に始まり、Ethernetとファイバチャネル(FC)トランシーバが四半期あたり10~30%のペースで急増。これらの製品の販売は2Q10に減速したが、直近の四半期に弾みがあった。10GbEや8G SFP+トランシーバなどの新しい製品が市場成長の大半を占めたが、多くのレガシー製品の販売は急落した。

SONET/SDHやDWDMモジュールの販売の伸びは、回復の初期段階では穏やかなものだったが、3Q10に勢いが増した。DWDM市場セグメントは28%の成長を記録しているが、これは固定波長と波長可変10G XFPトランシーバおよび40G DWDMモジュールの販売急増によるものとライトカウンティングは報告している。

通信用トランシーバ市場の回復加速は、ライトカウンティングが9月に発表した市場予測レポートと一致しており、ネットワーク敷設の初期段階に使用されるROADMsやポンプレーザなどの販売が今年上期に伸びた。同レポートでは、ネットワークアップグレードがラインカードにまで及ぶと、インタフェースモジュールの販売も伸びると指摘されていたが、今それが起こりつつある。

一方、光アンプに使われるポンプレーザモジュールの大手サプライヤは、3Q10の販売が減速していると報告しており、今期のガイダンスは悲観的だ。この減速は顧客の在庫管理によるものと考えられるが、2011年のネットワークアップグレード計画の展望が不透明であることの表れであるとも考えられる。楽観的な見方では、ROADMsの販売は2Q10に減速して次の四半期、3Q10に回復し、市場の力強さは続くと言われている。

GPONモジュールの販売は、2010年初めのFTTx市場の伸びをリードするものだったが、EPON販売も今年下期に立ち上がりを見せた。10GEPONモジュールの最初の出荷も複数のサプライヤから報告されている。10Gモジュールの価格は、FTTxアプリケーションで使用される低いデータレートのモジュールの20倍となっている。10GPONの数量増に伴い価格は下がっていく見込みだが、この価格はFTTxモジュールのサプライヤにとっては魅力的なビジネスチャンスとなっている。

100GbE 10km用トランシーバの最初の販売も複数のサプライヤから報告されている。この製品の少量出荷段階での価格は10GbEトランシーバの100倍であり、モジュールの複雑さを反映している。グーグル(Google)は、IEEE認定の100G 10kmインタフェースのデザイン(4×25G)にあからさまな対抗を表明しているが、現在の高価格がその理由の説明となっている(グーグルは、10×10G MSAを立ち上げている)。

多くの光コンポーネントやモジュールベンダの利益は、2001年のテレコムバブル崩壊以来最高レベルに達している。これはサプライヤが製造能力を強化し、規模の経済の恩恵を受けていることを示している。業界の統合も大手サプライヤの財務健全化に貢献している。